

土器からみた地域交流

大野城市教育委員会

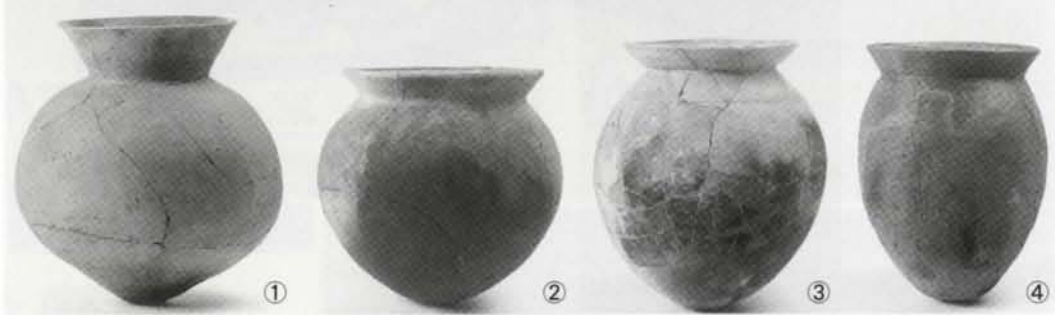


今回は、土器に注目して3～4世紀の交流について考えてみます。上の図を見て下さい。3世紀に入る頃から、福岡周辺では西日本各地の土器が見つかるようになり、またそれらをまねて作られた土器も見つかるようになります。その中で

一番多いのが、近畿地方（おもに大阪府・奈良県地域）の土器です。裏にある土器の図と写真を比べてみて下さい（図・写真①～③）。図は奈良県纏向遺跡の土器、写真は大野城市原ノ畑遺跡（解説シート『原ノ畑遺跡Ⅰ』参照）の土器ですが、よく似ています。一方、福岡周辺で作られてきた弥生土器の形をひきついだ土器もあります（写真④）が、逆に近畿地方では、福岡周辺から持ち込まれた土器やこれをまねて作られた土器はほとんど見つかっていません。先に近畿地方の土器などを「まねて」といいましたが、あるいは各地から来た人々が土器を作ったかもしれません。

また、海岸付近の遺跡である福岡市の西新町遺跡では、上の図や裏の写真のように各地のいろいろな土器が見つかりました。近畿地方の図③のような土器、次いで山陰地方の土器をまねた土器、そして韓国南部の土器も見つかりました。他に東九州、瀬戸内、東海地方で作られた可能性のある土器もあります。さらに、大野城市原ノ畑遺跡では、写真③のような近畿地方の土器をまねた土器と

西暦	200	250	300
	弥生時代		古墳時代
	弥生土器		土師器
近畿地方の土器			



図①～③は纏向遺跡（出典：榎原考古学研究所『纏向』1976）、写真①～④は原ノ畑遺跡



ともに、先に言った写真④のような福岡平野の伝統的な土器もみられます。

このように、遺跡によって見つかる土器は違いますが、土器から他地域との交流を考えることができます。福岡平野に各地の土器が存在する背景には、各地から多くの人々が集まって来ている活発な動きを想像させます。西新町遺跡など多くの地域の土器が見つかる海岸付近の遺跡には「市」があったのではと考える研究者もいます。

(2005.8)

写真 西新町遺跡出土の土器
 (上) 近畿や山陰地方の土器の形
 (下) 朝鮮半島南部の土器の形
 福岡県教育委員会提供